◎12月11日(月)に行われた、第2回目の学校運営協議会では、本運営協議会の今年度の取組の重点である「自分から挨拶ができる子どもを、育てよう。」の具現化を図るために、学校・家庭・地域が一体となって取り組む活動について、協議を行いました。

◎まずは、本校の学校経営方針の重点の一つに掲げてある「『あいさつ』と『返事』がしっかりとでき、礼儀正しく行動できる子の育成」を目指して、学校が行っている取組について、教頭が説明しました。

◎進んであいさつができる子どもを育てるために、学校が毎年行ってきている取組は、以下のとおりです。

①月別生活目標による指導と取組（学期の始めごとに、年間3回設定）

4月：「元気よく　挨拶をしよう」　　9月：「進んで　挨拶をしよう」、
1月：「気持ちのよい　挨拶をしよう」　※クラスごとにめあてを設定して実施。

②児童会役員による挨拶運動の実施

児童会役員による登校時における挨拶運動を募金活動と兼ねて実施。

③「あいさつキャンペーン」の実施

クラスごとに一定期間の中で、挨拶に係る目標を掲げ、校舎内で実施。

④さいたま市「「心を潤す4つの言葉」推進週間」を受けた取組

本市の11月に実施される推進週間を受けて、本校でも挨拶重点期間を設定し、子ども自身の評価や家庭での見届け・振り返りを行う。

◎説明後、校長から補足として、以下の追加説明をしました。

・月別生活目標による指導では、キーワードとなる「元気よく」「進んで」「気持ちのよい」の意味について子どもにも考えさせ、学校だけでなく「地域で知っている方々」や「お世話になっている方々」への挨拶をすることも、担当教師が必ず指導している。

・各学期の始業式・終業式の校長講話内で、「心を潤す・元気にする4つの言葉」をどのように自分は使っていくのかを、子ども一人ひとりにめあてをもたせて、その取り組みについて自己評価させる場面を必ず設定してきている。

・本校の子どもたちが他校に比べても、挨拶がよくできていることを、学校だよりを使って、何度も紹介してきている。（特に挨拶がテーマになっている内容は、校長の在職期間約4年間の中で、5回掲載。）

◎ただ、学校評価アンケートでは、「学校の取組が十分でない」、「正門でしか挨拶をしない」といった内容の御意見を、毎年少数ですが、いただいています。

◎実際に、学校評価アンケートの「挨拶」の項目については、以下のような結果となっています。

●子どものA評価：「自分から、あいさつをしていると思う。」

令和4年度　59.6%　⇒　令和5年度　60.4%

（89.1%）　（90.0%）

※（　）の数値は、B評価の「まあまあ、あいさつをしていると思う」を加えた数値

●保護者のA評価：「与野八幡小学校の子どもたちは、あいさつや返事をしっかりとし、友達との関わり合いを大切にする子どもに育っていると思う。」

令和4年度　38.4%　⇒　令和5年度　39.0%

（95.1%）　（94.9%）

※（　）の数値は、B評価の「まあまあ、そう思う」を加えた数値

◎子ども・保護者共に、数値的な変容が見られない状況にあります。

そこで、「保護者（家庭）」「地域（学校関係者）」に御協力いただき、それぞれの立場で与野八幡小学校の子どもたちを、「進んであいさつができる子ども」に育てるために、何ができるかを考えていただきました。

◎「保護者（家庭）グループ」「地域（学校関係者）グループ」共に、大変熱心で、活発な協議が行われました。

◎そして、たくさん出された意見を付箋にメモしていきながら、「挨拶ができない・挨拶をしない」子どもたちの原因究明と、その手立てについて考えました。

◎そして、それぞれが考え出した手立てや取組について発表し、確認・検討し合うことにしました。

◎「保護者（家庭）グループ」の手立て・取組の柱は、大きく2つでした。

◎手立て・取組①

『「一緒に行こう・一緒に帰ろう運動」「通学班」「地域ボランティア」と連携して、大人から挨拶する姿を見せていき、子どもにとって顔見知りになっていく。』

⇒まずは、子どもに与野八幡小の保護者であることを知っていってもらうことが必要なこと。（子どもは、友達の親には挨拶をするので。）
⇒通学班で集合する時に、感染対策からなのか、「お話をしては、いけない」と子ども自身が誤解していることも考えられる。そこで、担当の保護者から、子どもに挨拶するよう声掛けをしていく。
⇒地域の防犯ボランティアの方や交通指導員の方と連携して、子どもへの声掛け協力を再依頼する。（広報の一つとして、地域を守っている方々のことを顔写真付きでお知らせしていく。）

◎手立て・取組②

『親（保護者）が、挨拶する姿を、継続して子どもに見せていく。』

⇒受け身ではなく、保護者から挨拶を、家庭内でも外出先でも、徹底して行うことを継続していく。（学校の取組〔今日、何人に挨拶したのか？など〕をまねたりしながら。）

◎「地域（学校関係者）グループ」の手立て・取組の柱は、大きく4つでした。

◎手立て・取組①

「通学班で、6年生が下級生に、挨拶を教えていく。」

⇒朝は、挨拶がしづらいのかもしれない。また、朝なので、迷惑を掛けないように「静かにしなさい」と、言われているのかもしれない。班員の中では、挨拶ができているのであろうか？まずは、6年生がお手本を示すことで、下級生が挨拶するようになるのではないか。

◎手立て・取組②

「親も挨拶をし、子どもにも挨拶をするよう伝えていく。」

⇒親同士は挨拶をするが、一緒にいる子どもに「挨拶をしなさい」とは言わないので、また、子どもは、相手が誰だか分かると、挨拶をしてくれる。

◎手立て・取組③

「よい挨拶が返ってきたら、一言付け加える。」

⇒よい挨拶が返ってきたら、「挨拶って、気持ちがいいね。」といったように、言葉や御礼を返してあげると、よいのではないか。

◎手立て・取組③

「児童センターで、知らない子ども同士がかかわる機会を増やしていく。」

⇒挨拶をする子、できる子はいるし、児童センターでも挨拶は、よくしてくれる。学校内で挨拶ができるのは、安心できる場所だからではないか。今は、ゲームやインターネットの時代で、子ども同士が外で遊ぶことが減ってきており、道路を歩いていても不審者対応からなのか「知らない人には、声を掛けないように」と言われてしまっている。人間関係がどんどん希薄になっていることも、挨拶ができなくなっている容易なのではないか。子ども同士がたくさん触れ合える機会を、センターでも提供できないか、考えてみたい。

◎二つのグループの考えを聞いた後、関係中学校の校長先生から、中学校の生徒の挨拶の様子や取組について、お話をいただきました。

◎我が与野西中学校の自慢の一つに、「挨拶が、とてもよくできる」が挙げられる。生徒も、そのことを自らが誇りに思うほど、挨拶で校内が潤っている。

◎中学校は部活動があるので、生徒間の挨拶も日常化していることは考えられると思う。

◎小学校でも、しっかりと挨拶への指導を行ってくれているからこその、中学校での挨拶につながっていることは、言うまでもない。

◎本校の特色の一つに安全教育が挙げられるが、生徒自らが学区内の安全マップを作成するために、地域に出向いていく。その際に、挨拶がとても役に立っていることが、実感としてあるのかもしれない。地域の人に進んで挨拶ができるので、修学旅行や校外学習でお世話になる方へも、自然と挨拶ができている。

◎与野本町駅で、生徒会役員が、中学校で作成した学校安全マップを入れたティシュを配った時も、見知らぬ人から挨拶や御礼をもらい、充実感や満足感を感じたようであった。

◎中学生と小学生が連携して、挨拶に関する取組を行うような時は、喜んで協力させていただく。

◎これまでの手立て・取組と実践例を共有し合った後、教頭が、以下のように、まとめました。

①本運営協議会の今年度の取組の重点である「自分から挨拶ができる子どもを、育てよう。」に向けて、それぞれの立場で取り組むことを、これから実践に移してほしい。

②別々に取り組むだけでなく、「学校・保護者・地域が一体となって、協働して行う取組」を、是非行っていきたい。それを、次回の協議会で決定していきたい。

最後は、委員全員の拍手で、終了することができました。